劇場便り 37

ブレーマーハーフェン　　志賀トニオ氏

オペラ「薔薇の騎士」に子役で出演した長女とオーケストラピットで

映画音楽コンサートで、チェレスタとキーボードを弾く筆者の様子

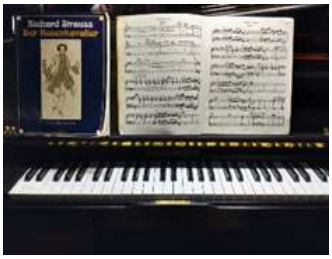
劇場で働くコレペティトアの重要な仕事の一つにTastendienstがあります。日本語に訳すと“鍵盤の仕事”。今年の春はそのTastendienstが多かったので、今回の便りではその仕事内容をご紹介したいと思います。

Tastendienstとはオーケストラ奏者として鍵盤楽器を演奏する事です。具体的には、ピアノ、チェレスタ、キーボード、オルガン、チェンバロ等を定期演奏会やオペラ公演で演奏します。この春にはミュージカルのThe Apple Tree（リンゴの木）という作品を稽古していたのですが、その稽古と並行してFilmkonzert（映画音楽コンサート）の稽古が始まりました。今回はジョンウィリアムスの作品だけを取り上げており、スターウォーズ、ハリーポッター、ジュラシックパーク等が演奏されました。指揮は同僚のカペルマイスターが担当し、私はTastendienstを担当しました。ジョンウィリアムスと言えばトランペット等の金管楽器が大活躍しますが、実は目立たないのですがヴァイオリンや木管楽器が１６分音符の速いパッセージを頻繁に演奏していて、作品の華やかさを演出しているのです。そしてそこには鍵盤楽器も参加していて、ピアノとチェレスタは大変難易度が高いパート譜になっているのです。

さて、コレペティトアとしてTastendienstの仕事がある時の最初のやるべき事はパート譜を確保する事です。最初のオーケストラの稽古日を把握し、遅くてもその１～２週間前に稽古場の楽譜置き場に楽譜を取りにいかなければなりません。今回私はミュージカルの稽古に従事しており、日程的にFilmkonzertの最初の稽古はミュージカルのプレミエが終わった直後に始まると把握していました。なぜなら過去10数年の経験では、プレミエ前の１週間は１つのプロダクションに集中し、別のプロダクションを並行して稽古した事がなかったからです。しかし、たまたま同僚との会話の中で、プレミエの５日前にミュージカルの稽古の隙間にFilmkonzertの稽古が始まる事を聞いてびっくり仰天！もちろん自分のミスなのですが、大急ぎでパート譜を取りに行きました。そしてその音符の多さを見てまたしてもびっくり仰天！その時点で最初の稽古まであと５日、大慌てでミュージカルの稽古の隙間をぬって練習しました。最大の見せ場はなんといってもハリーポッターのテーマ。冒頭のチェレスタのソロで始まり、その後も１６分音符のオンパレード！その他、弾くのが楽しかったのは映画ジョーズのテーマ。冒頭でサメが現れる海を表現する場面ではピアノの低音のトレモロで始まり、サメが現れてからもピアノのソロがあります。

こうしてミュージカルのプレミエとFilmkonzertの本番がそれぞれ無事成功し、次の演目はリヒャルトシュトラウス作曲の薔薇の騎士。こちらのTastendienstの仕事も私に回ってきました。薔薇の騎士で一番有名なのは第２幕冒頭の銀の薔薇の贈呈の場面なのですが、ここではまたしてもチェレスタの大きなソロがあります。この場面は遅いテンポなのですが、両手で３和音を弾き、その３和音が高音と低音を何度もジャンプするので、鍵盤を見ながら弾く必要があります。それはつまり指揮者を見れない事を意味するのです。その中で距離の離れた弦楽器やハープと合わせなければなりません。そして本当の難しさは、その場面まで出番が少ない事なのです。チェレスタパートは第１幕約１時間１５分の中で演奏機会はおよそ３０小節、時間にして約２分程しかありません。ひたすら休みの小節を数えていきなり大きなソロを演奏しなければならない。これがTastendienstの一番難しい所だと私は思っています。普段オペラの稽古を弾いていると、弾いている間に油がのってくるものですが、休みが多いTastendienstの場合その時間がありません。

私の場合、本番前にいつもより多めに基礎練習等に時間を費やしたり、早めに会場入りして本番の楽器で練習する時間を確保するように努めています。薔薇の騎士では曲の終盤に薔薇の贈呈を回想するシーンがあり、ここでも大きなチェレスタのソロがあります。



薔薇の騎士のプレミエは大成功し、後日の新聞の批評に公演の最後のチェレスタがMagisch（マジックのよう）であったと書いてもらい演奏した甲斐がありました。